|  |  |
| --- | --- |
| 令和2年2月19日（水） | 資料1 |
| 令和元年度第3回自立支援協議会 | |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 部会名 | 令和元年度　第1回　障がい児部会 | | |
| 日時 | 令和元年11月11日（月） 9：30～11：30 | | |
| 場所 | 板橋区役所 北館9階 901会議室 | | |
| 参加者 | 委員12名、オブザーバー1名、事務局3名 | | |
| 会議の公開（傍聴） | 公開（傍聴できる） | 傍聴者数 | 2人 |
| ○ 協議事項  （１）サポートファイルについて  　　事務局よりサポートファイルについて説明を行った。  　（主な意見）  　　【 完成に向けた取り組みについて 】  ・ 小学生の欄に「放課後（あいキッズ）での動き」を追加したほうがいい。  ・ 放課後等デイサービス事業所連絡会等、多数の事業所が出席する会にて意見をいただいたほうが良いのではないか。    　　【 完成後の配布方法等について 】  　　　・ 他区において、完成後の運用方法が定まらず、数年で廃止となった例があるため、運用方法についても検討を重ねることが望ましい。また、実際に使用する親や事業所の理解が必要である。  　　 ・ 親目線だと、記入書類が増えて煩わしいと感じることも想定される。他区がどのような運用をしているか把握する必要がある。  　　　⇒　平成30年度に、児童館の副館長間でサポートファイルについて協議し、導入している自治体宛てに調査を行ったので、工夫した点や課題等が参考になるかもしれない。  ・ 保育園での配布は厳しいと思われる。親が障がいというレッテルを貼られることを嫌がり、細かく記入しない可能性がある。  ・ 広く周知するのであれば、母子手帳と同タイミングでの配布が良いのではないか。  ・ ホームページに掲載し、自身が必要と思った部分のみをダウンロードする形式にするのはどうか。  ・ 利用者が生涯記入し続けるのは難しいのではないか。  （２）第2回障がい児部会と「乳幼児の発達を支援する関係機関連絡会（発達ネット）」との共催について  　　 　事務局より資料に基づき説明を行い、共催について提案したところ異議がなかったため、第2回障がい児部会と第2回発達ネットの共催予定。 | | | |
| （３）各部会員の現状についての意見交換  　（主な意見）  　　・ 子ども発達支援センターにて個別支援調整会議を開催し、現場の相談等を受けている。  ・ 高島特別支援学校の学区域が、板橋区の大部分と練馬区の半分程度に変更となった。児童・生徒数は増加し、知的の特別支援学校の中では規模の大きい学校となっている。また、特別支援学校の児童・生徒は、地域の子どもとの関わりが少ないため、副籍制度により地域の学校との交流を行っているが課題が多い状況である。制度普及の浸透には、地域の理解が必要であるため、理解促進を図るべく講演会を12月16日に開催する。  ・ 加賀福祉園児童ホームの待機状況は増減なし。また、医療的ケアが必要な子どもの利用が増えている。  ・ 東京YWCAキッズガーデンの待機状況は依然多いが、事業所数が増えてきたため待機者が他事業所へ繋がったことを聞くケースもある。来年度は、年長者の待機への対応を検討していきたい。  ・ 放課後等デイサービス事業所連絡会にて、複数の事業所を併用している利用者への支援方法等を検討している。  　　・ ほっとプログラムは参加者の親にとって、安心して遊べる居場所となっている。参加者の実数については来年度調査する予定。  　　・ 子どもの障がいが家庭内での虐待に繋がる場合もあり、大きな課題である。令和4年7月に児童相談所を設置するうえで、保護者の悩み等を受け止め対応していくことが必要である。  　　・ 年々、事業所数は増加しているが、複数の事業所を活用し、多く利用できている利用者がいる中で、長期間待機している利用者もいることから利用の偏りが見られる。  　　・ ステップアップ教室の利用は年々増加している。  　　・ その他、各機関の現状と問題点等について報告があった。 | | | |